

日航の再建リストラで新たな裁判

子会社つぶしは許せない！日東整争議団が提訴

JALによる子会社つぶし。JALの再建で会社ごとつぶされたのは、数多くある関連会社の中でも日東航空整備(日東整)だけ。長年日東整で働いてきた整備士の泉聖二さんと佐藤二郎さんは3月14日、「日航の横暴は許せない」と、日航等3社を相手取り、解雇撤回と損害賠償を求めて東京地裁に提訴しました。日航の再建リストラに対する新たな法廷闘争です。

この闘いは①日東整の整備作業を引き継いだ JAL エンジニアリング(JALEC)に、業務だけでなく泉、佐藤さんの雇用も引き継がせること、②日航の利益第一主義、労働組合敵視の政策を改めさせ、安全・安心の JAL を築くこと、③子会社・労働者使い捨ての日航・大企業の横暴を許さないという、大きな意義を持つ闘いです。



【写真】提訴後の記者会で声明を発表し、提訴に至った経緯や訴えのポイントを説明。左より坂井航空連副議長、原告の泉さん、原告の佐藤さん、船尾弁護士、竹島航空連事務局次長

日航の再建で会社つぶされ争議に

日東整は、日航が運航する飛行機の重整備(車で言えば車検に相当、一定の間隔を定めて行う点検・整備)を担当してきた日航の子会社です。昨年(11年)1月、会社は突然「日航から『2月以降の仕事はない』といわれた」「日航からの整備作業がない以上事業の継続は困難だ」として、会社解散を発表。そして、3月31日をもって全社員(144名)を解雇してきたのです。日東整が受け持ってきた整備作業がなくなったわけではありません。日航は日東整の業務を、グループの別会社である JALEC に引き継がせました。しかし日東整社員の雇用は引き継がれませんでした。日航は再建のためとして、意図的に日東整をつぶしたのです。

争議団を立ち上げ闘ってきた泉さんと佐藤さん。2人は、「日航の横暴は許せない」と、日航等3社(日航、JALEC、

日東整)を相手取り、雇用の継続と損害賠償を求めて東京地裁に提訴をしたのです。

原告主張(訴え)のポイント

原告は本裁判で、①泉さんの JALEC 社員としての地位確認とバックペイの支払い、②佐藤さんのバックペイの支払い、③日航、JALEC、日東整の3社による損害賠償、の3点を求めています。

地位確認=労働契約は継承されるべき

①日航と日東整及び JALEC は支配従属の関係にあること。そして支配者である日航の方針の下で、日東整に対する委託契約が「合意解除」され、JALEC と委託契約が締結されたが、実態は日東整から JALEC への事業譲渡の合意に



【写真】報告集会で裁判の目的や意義を報告する長尾弁護士

本件のような事業譲渡の場合にも類推適用されなければならない。

当たる。

②この事業譲渡において、日東整従業員の労働契約を排除(解雇)することは不当労働行為であり、公序良俗に反する違法行為である。
③会社分割に当たり、労働契約を継承させる旨定めている労働契約継承法3条は、

本件のような事業譲渡の場合にも類推適用されなければならない。

労働契約上の権利侵害に対する損害賠償

- ①上記のとおり原告らは JALEC に労働契約が継承され、JALEC の職場で働く権利を有していた。
- ②ところが日航の方針の下で「日東整に対する委託契約解除・JALEC への委託」をし、3 社共同で解雇を実施し、上記権利を侵害した。



【写真】提訴に向かう泉さん(前列左より4人目)、佐藤さん(その隣のゼッケンの男性)、そして弁護団と支援者の方々

この争議で必ず勝ちます！

佐藤二郎さんの決意表明



私は、30 年間にわたり、日航の航空機整備を担い安全運航に貢献してきました。日航の経営破たん後の再建策として、ボーナスなし、賃金カットなどにも協力させられました。そのあげく、会社ごとつぶされ、全員クビではたまりません。経営破たんに何ら責任のない日東整

とその従業員に対する大企業日航の横暴、子会社つぶしは許せない！との強い想いで提訴しました。この争議で必ず勝つ！という決意です。みな様のさらなるご支援をお願いいたします。

日東航空整備とは

1980 年設立、日本航空(設立当時は東亜国内航空)と日本飛行機株が 50 対 50 の出資で設立した航空機の整備会社。会社役員や管理職のほとんどが日航からの出向者。事業収入の 9 割以上が日航からの受注。

JALエンジニアリングとは

日本航空の 100% 出資の整備子会社。日東整が事業を終了した以降、海外就航基地等での整備を除き、日航の整備を一手に引き受けている。

日本飛行機とは

航空機製造メーカーの一つで、川崎重工の 100% 子会社。製造部門では、翼や胴体などの部品を製造。米国のボーイング社等に納めている。また整備部門では自衛隊機等の整備を行っている。

許しません！ 労働者の使い捨て

泉聖二さんの決意表明

日東整がつぶれ、全員がくびになったのは、JAL が意図的に日東整への業務委託を打ち切ったことに眞の原因があります。JAL は自らの経営方針に協力させるために、日東整労組の変質を画策し、労組は労使協調に踏み出しました。それでも「闘う労働者がいる」と敵視し、会社ごとつぶして全員解雇です。



労働者の権利や働く職場を奪い、まじめに働く労働者を使い捨てにする JAL の横暴は絶対に許せません。このような経営姿勢では、安全運航にも重大な危惧を抱かざるを得ません。私は解雇撤回とともに、JAL に対して、「親会社の責任として、事業を引き継いだ JALEC で雇用を確保すること」を求めて運動してきました。本日の提訴を機に一層運動を強化し、勝利するまで闘う決意です。



【写真】提訴当日の宣伝行動には JAL 不当解雇撤回裁判原告団からも多数参加していただきました